



一瞬の時を要した
それがクバ笠をかぶり半透明の雨合羽に包まれて
釣りをする人の姿であったことに
迫り来る、巨大な黒い岩の塊
その上に在る得体の知れない人々の姿
ようやく小さな赤い餌箱と岩に生える植物を見つけると
遠くに、無彩色の海と空がゆっくりと瞬きをした

海の風景を撮るために海岸沿いに車を走らせていました。道路脇に軽トラックや自家用車がボソソと止められているのが気にかかり、カメラを持って後を追うと、必ずそこに釣りをする人々の姿を見つけたという。以来、 笹岡啓子が釣り人の背後から海岸線を撮り続けているのが『FISHING』シリーズである。作品『Kunigami, Okinawa 2007』を初めて見た時にはどこか異様な気配を感じたが、小雨の中で竿を振る釣り人だと理解してしまうと、急に雨合羽に落ちる雨粒の感触と濡れた空気が肌にまとわりつく感覚に襲われ、遠くからの潮騒の音が微かに耳に入ってきた。 笹岡の写真には深い霧に霞む浜で海草を探る人々の情景や、波打ち際の潮が引いた岩場でひとり手網漁をする姿など、大自然に在る人間とその営みに眼が向けられている。 峻烈で過酷な自然環境が時折見せる異界の様相が写し出されているかと思うと、海岸沿いの道を釣り場へと自転車で走って行く人の後ろ姿や、暑い陽射しを浴びて上半身裸で釣りをしている人、竿を手に岩場を磯に向かう人など、身近な日常を撮ったかのような写真も少なくない。しかし、それらの写真に時間や場所、出来事を切り取ったという印象を持つことはなかった。表立った強い思いやアクションを感じることもなく、ただカメラを持ってその時を待ち、見えたもの感じたものをフィルムやデータに落としていったという趣だ。それでも海面から突き出た大地の表面、岩場や岩肌に生える植物の強い存在感は眼に焼き付いて離れる事はない。 笹岡の写真を見ていると日常／非日常、自然／人間というような二項対立の思考では捉え切れない世界が現前している。展示室で作品に囲まれていると、どの写真も連綿と続いてきた人々の当たり前の日々とその変わらぬ風景であったのだと思えてくる。 笹岡はそのことを肌で感じ、その透徹した眼はシャッターを切るべき一瞬の匂いと空気を知っている。初期の正方形フレームの写真にもその意思と姿勢を強く感じるものがあった。身構えことなく待ち続けるという 笹岡の行為が、そこにある境域との邂逅を可能にし、過去と現在を繋ぐ重層化された時間の集積を写真という方法で垣間見せることができるのだろう。『FISHING』に写し出されたそれぞれの海景は、遙かなる時空を超えて、縄文の海にまで辿り着ける予感を抱かせてくれる。

岡本康明(京都造形芸術大学芸術館館長)

関連企画1
講演「縄文食をさぐる」(縄文クッキー付)
5月6日(火・祝)午後4時30分—5時50分
講師：宮尾亨氏(新潟県立歴史博物館 専門研究員)
聞き手：岡本康明(京都造形芸術大学芸術館館長)
会場：人間館1階 102教室(予約不要)



5月4日(祝)午後4時30分—5時50分
講演「縄文食をさぐる」(縄文クッキー付)
5月6日(火・祝)午後4時30分—5時50分
講師：宮尾亨氏(新潟県立歴史博物館 専門研究員)
聞き手：岡本康明(京都造形芸術大学芸術館館長)
会場：人間館1階 102教室(予約不要)



関連企画2
対談「『FISHING』からみえるもの」
5月10日(土)午後4時30分—5時30分
講師： 笹岡啓子(写真家)+岡本康明
会場：京都造形芸術大学芸術館(予約不要)

関連企画2
対談「『FISHING』からみえるもの」
5月10日(土)午後4時30分—5時30分
講師： 笹岡啓子(写真家)+岡本康明
会場：京都造形芸術大学芸術館(予約不要)

笹岡啓子 | 略歴
1978年広島県生まれ。2002年東京造形大学卒業。2001年の設立時よりphotographers' galleryに参加。写真集に『PARK CITY』(インスクリプト、2009年)、『EQUIVALENT』(RAT HOLE GALLERY、2010年)、『FISHING』(KULA、2012年)。冊子シリーズ『Remembrance』1~41号。「VOCA展2008」奨励賞、「日本写真協会新人賞」(2010年)、「さがみはら写真新人奨励賞」(2012年)、第23回林忠彦賞(2014年)を受賞。
主な展覧会
2013 アート・アーチ・ひろしま2013「ピース・ミーツ・アート!」広島県立美術館、広島
三陸復興国立公園指定記念「種差—よみがえれ 浜の記憶」青森県立美術館、青森
2012 「この世界とわたしのどこか 日本の新進作家vol.11」東京都写真美術館、東京
「Parallel Visions: Japan and Korea Contemporary Photography Exhibition」Hong Kong Arts Centre、香港
2011 「現代の造形—Life & Art—半農半アート—水ありて—」東広島市立美術館、広島
「Hiroshima Art Document 2011」旧日本銀行広島支店、広島
2010 「SO+ZO展 未来をひらく造形の過去と現在 1960s→」Bunkamuraザ・ミュージアム、東京
2009 「歸去來今—[久万]再発見 旅人のレンズ」町立久万美術館、愛媛
2008 「写★新世界」せんだいメディアテーク、宮城
「VOCA展 2008 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館、東京